

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円はレンジ相場で推移か

[1 2 月 1 2 日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		12月5日～12月9日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	134.43	137.86(7)	134.13(5)	136.07	+1.76
ユーロ・ドル	1.0532	1.0595(5)	1.0443(7)	1.0575	+0.0040

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	27,901.01	+123.11	日本10年債利回り	0.255	0.000
ダウ平均株価	33,781.48	-648.40	米10年債利回り	3.482	-0.004

=====

<来週の主要経済統計等>

- 12日 英12月ライトムーブ住宅価格
英10月鉱工業生産指数、英10月製造業生産指数、英10月貿易収支
米11月財政収支
- 13日 英11月雇用統計
独11月消費者物価指数確報値
独12月ZEW景況感指数
米11月消費者物価指数
独10月経常収支
- 14日 NZ第3四半期経常収支
日銀短観(12月調査)、日本10月機械受注
日本10月鉱工業生産指数
英11月消費者物価指数、英11月生産者物価指数、英11月小売物価指数
スイス11月生産者・輸入価格
ユーロ圏10月鉱工業生産指数
カナダ10月製造業出荷
米11月輸入価格指数
米連邦公開市場委員会(FOMC)政策金利
パウエル議長記者会見
- 15日 NZ第3四半期GDP
日本11月貿易収支
豪11月雇用統計
中国11月小売売上高、中国11月鉱工業生産指数
英中銀(BOE)政策金利
欧州中央銀行(ECB)政策金利
ラガルド総裁記者会見
米11月小売売上高、米12月NY連銀製造業景気指数
米新規失業保険申請件数、米12月フィラデルフィア連銀景況指数
米11月鉱工業生産・設備稼働率
米10月対米証券投資
- 16日 英11月小売売上高
独12月製造業PMI速報値、独12月非製造業PMI速報値
ユーロ圏12月製造業PMI速報値、ユーロ圏12月非製造業PMI速報値
英12月製造業PMI速報値、英12月非製造業PMI速報値
ユーロ圏11月消費者物価指数確報値、ユーロ圏10月貿易収支
カナダ10月卸売上高
米12月製造業PMI速報値、米12月サービス業PMI速報値

【前回のレビュー】F R Bによる1 2月会合での利上げ幅は、今後の経済指標の結果に左右される可能性はあるものの、利上げ幅は0. 5 0%にとどまる可能性が高い。F R Bの利上げペース減速が材料視される中、ドル円は軟調な推移が続くとした。

【強い米経済指標を受けてドル買いに】

1 1月3 0日の講演でパウエルF R B議長は、利上げペースを緩める時期が「早ければ1 2月の会合で来る可能性がある」との見解を示したことでドル売りの動きとなり、ドル円は2日に1 3 3. 6 3近辺まで下落した。

ただ、5日発表の1 1月の米I S M非製造業景況指数が市場予想を上回る強い結果となり、米連邦準備制度理事会（F R B）による金融引き締めが長期化するとの見方が広がり、ドル買いに傾いた。ドル円は1 3 6. 8 6近辺まで大きく上値を伸ばした。その後、7日には1 3 7. 8 6近辺まで上値を伸ばしたものの、一方向の動きとはなにくく、1 3 5～1 3 7円台での振幅が続いている。

1 2月1 2日の週は、1 3日発表の1 1月の米消費者物価指数と1 4日に結果が発表される米連邦公開市場委員会（F O M C）が特に市場の注目度が高い。

1 1月の米消費者物価指数は事前予想では、前月比+ 0. 3%（前回+ 0. 4%）、前年比+ 7. 3%（前回+ 7. 7%）、コアは前月比+ 0. 3%（前回+ 0. 3%）、前年比+ 6. 0%（前回+ 6. 3%）となっている。前回のように市場予想を下回ると、F R Bによる利上げペース減速が一段と意識されて、ドル売りに傾きやすいとみられる。

一方で、市場予想を上回った場合、1 2月のF O M Cでの利上げ幅は0. 5 0%にとどまるものの、その後の利上げ継続期間が長引く可能性が出てきて、ドル高に振れる可能性が高まる。市場予想を大きく上回った場合は、0. 7 5%の利上げの可能性が高まる可能性も意識されて、ドル高に傾きそうだ。

F O M Cでは早期の利上げ打ち止め観測に警鐘を鳴らすために、声明やパウエル議長の記者会見で利上げ継続姿勢を示してくるとみられる。1 2月の利上げ幅はこれまで4会合連続での0. 7 5%から0. 5 0%に鈍化させる可能性が高い。今回はF O M Cメンバーによる経済見通しや政策金利見通しなどが発表される。5%前後と想定されるターミナルレート（利上げの最終到達点）がどの程度の水準になりそうなのか、といった点も注目される。

C M E F E Dウォッチによると、1 2月の米連邦公開市場委員会（F O M C）での0. 5 0%の利上げ確率は7 5%前後、0. 7 5%の利上げ確率は2 5%前後となっている。

F R Bによる利上げ継続姿勢は示されると思われるが、それも織り込まれるとみられる。米国の景気は徐々に減速する可能性が高まる中、ドル円は1 3 6～1 3 7円台を中心とするレンジ相場で推移することとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、1 3 4. 0 0～1 4 0. 0 0円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、1 2日に米1 1月財政収支、1 3日に米1 1月消費者物価指数、1 4日に日銀短観（1 2月調査）、日本1 0月機械受注、日本1 0月鉱工業生産指数、米1 1月輸入価格指数、米連邦公開市場委員会（F O M C）政策金利、パウエル議長記者会見、1 5日に日本1 1月貿易収支、米1 1月小売売上高、米1 2月N Y連銀製造業景況指数、米新規失業保険申請件数、米1 2月フィラデルフィア連銀景況指数、米1 1月鉱工業生産・設備稼働率、米1 0月対米証券投資、1 6日に米1 2月製造業P M I速報値、米1 2月サービス業P M I速報値などがある。

【ユーロドルは緩やかに上値を追う展開か】

1 1月3 0日に発表された1 1月のユーロ圏消費者物価指数速報値は前年比+ 1 0. 0%となり、事前予想の+ 1 0. 4%や前回の+ 1 0. 6%を下回った。前月比は- 0. 1%となり、予想の+ 0. 1%や前回の+ 1. 5%を下回った。コア前年比は+ 5. 0%と予想の+ 4. 9%を上回り、前回から横ばいだった。

インフレ率の伸びは若干鈍化しつつあるものの、前年比+10.0%は相当に高い状況であると言える。こうした中、15日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、0.50%ないしは0.75%の利上げに動くと考えられている。市場の予想では、0.50%の利上げの可能性が高いとみられる。

ユーロ圏で景気減速への警戒感は根強いものの、インフレ率の高さから利上げ継続姿勢は続くと考えられる。ユーロドルは200日移動平均線の上で推移しており、底堅い動きを見せながら緩やかに上値を追う展開となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0250～1.0750ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、12日に英10月鉱工業生産指数、英10月貿易収支、13日に英11月雇用統計、独11月消費者物価指数確報値、独12月ZEW景況感指数、独10月経常収支、14日にNZ第3四半期経常収支、英11月消費者物価指数、英11月生産者物価指数、スイス11月生産者・輸入価格、ユーロ圏10月鉱工業生産指数、15日にNZ第3四半期GDP、豪11月雇用統計、中国11月小売売上高、中国11月鉱工業生産指数、英中銀（BOE）政策金利、欧州中央銀行（ECB）政策金利、ラガルド総裁記者会見、16日に英11月小売売上高、独12月製造業PMI速報値、独12月非製造業PMI速報値、ユーロ圏12月製造業PMI速報値、ユーロ圏12月非製造業PMI速報値、英12月製造業PMI速報値、英12月非製造業PMI速報値、ユーロ圏11月消費者物価指数確報値、ユーロ圏10月貿易収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。